



南島原市国際交流員

フランチさんのチャオ! 南島原

「お酒の文化」



古代ギリシャ人がイタリアのことを「エノトリア（ブドウの木の家）」と呼んでいたほど、昔からイタリアのワインは世界で人気を誇っています。しかし、最近イタリアでは、ワインよりビールが多く飲まれていることを知っていましたか。

ビールはワインよりアルコール度数が低く値段が安いので、最近ワインの国イタリアでもビールを選ぶ人が増えています。

イタリアは「美味しく食べて美味しく飲む」文化といわれています。イタリア人はたくさんの「量」を食べますが、どちらかというと「質」にこだわります。それはジャンクフードやファストフードより高質のスローフードを好む人がほとんどだからです。これは「質」より「量」を大切に英語圏の人と比べると、イタリア人と日本人の共通点だと思います。

ただ、お酒に関しては、イタリア人は美味しいものを食べながら少量のお酒を味わうことが一般的ですが、日本の宴会では食べるより大量にお酒を飲んで人間関係を築くことを重要視しているようです。

お酒の場で必ず聞かれるのは「お酒強いですか」とい



う質問。イタリアではあまり聞かれたことがありません。この質問だけでイタリアと日本の「お酒の文化」の違いが分かるような気がします。

遺伝的素質でイタリア人より日本人の方がお酒に弱いことが科学的に証明されているようですが、お酒を飲んで酔っ払って道でべろべろになっている日本人を都会でよくみかけました。イタリアではそういう人を見かけることが少ないです。その理由は世間に印象が悪い人として見られるからです。日本ではそれほど気にする人がいない気がします。

大量のお酒を飲んで恥ずかしい姿を見せるよりは、宴会で美味しい料理を味わいながら適量のお酒を飲んで楽しく時間を過ごすのはいかがでしょうか。

フランチの 「ヴォーノ!!イタリア料理講座」

イタリアからの国際交流員フランチのイタリア料理講座を開催します。
簡単なイタリア語・イタリア文化を勉強しながら
楽しく料理を作ってみませんか?
お子様連れでも大丈夫です。

※「ヴォーノ」とは、イタリア語で「おいしい」という意味です。

①アスパラホワイトソースのパスタ・サーモンのワイン炒め
📅 6月23日(火) 午前10時30分～午後1時30分
📅 6月16日(火) 午後5時

②ミックスライスサラダ・イタリアンジェラート
📅 7月28日(火) 午後7時～9時
📅 7月21日(火) 午後5時

【共通事項】
📍 有家保健センター
定 20人
料 500円(参加人数で変動)
☎ 電話、FAX、Eメールで
申し込んでください。

企画振興課 ☎ 050(3381)5030 FAX 0957(82)3086
Eメール: chiikiseisaku@city.minamishimabara.lg.jp

※今年度は、6月から平成28年2月まで、毎月1回開催します。
日程は広報紙、市ホームページでお知らせしますので、随時申し込みください。



つなごう未来へ! 島原半島世界ジオパーク

ジオパークであり
続けるための取り組み

島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジーくん」

☎ 0957(65)5540



島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジーナちゃん」

ジオサイト⑮ 緑のトンネル ～旧小濱鉄道跡～



旧小濱鉄道千々石第二トンネル。今にも蒸気機関車が走り出さそうです。



木津の浜駅跡。往時のプラットフォームがほぼ完全な形で残されています。

今回は遺構の一部が経済産業省の近代化産業遺産に登録されている旧小濱鉄道跡です。

千々石と小浜を結ぶ海沿いの県道201号線は、トンネルや切り通しが連続するにもかかわらず、道はとても平坦です。なぜならこの道には、約100年前に鉄道が走っていたからです。

大正12年、愛野村駅（現在の愛野駅）から千々石まで温泉軽便鉄道が開通しました。これを受け、小浜まで鉄道を開通させ、温泉リゾート地として人気を博している雲仙・小浜に観光客を導き、地域を活性化させようと、地元の有志が立ち上がり、小濱鉄道が設立されました。

しかし、千々石から小浜までの海岸沿いは、約26万年前に形成された猿葉山の火山噴出物がつくる断崖絶壁が連なっており、掘削道具はツルハシとノミ、そしてダイナマイトのみだったため、線路の敷設は難を極めました。千々石の町を過ぎると、鉄道の線路は標高20mから一気に標高50mのところまで坂を登りましたが、これは少しでもトンネルの長さを短くするための工夫でした。着工から5年半、工事従事者延べ約20万人と工事費約75万円（現在の貨幣価値で約40億円）を投じて、昭和2年に小濱鉄道は開業しました。

しかし、終着駅が小浜温泉の中心街から2km近く離れていたことに加え、同時期に普及した自動車やバスの方が運賃が安かったこともあり、開通当初から苦しい経営を強いられました。

昭和8年、小濱鉄道は温泉軽便鉄道と合併して雲仙鉄道と名を変え、営業を続けましたが、状況は好転せず、難工事の

末の開通からわずか11年後の昭和13年に廃線となりました。この数奇な運命は、猿葉山という火山があったことが遠因といえるでしょう。

県道201号線沿いには、かつてここに鉄道が走っていたことを示すさまざまな遺構が残っています。上千々石駅や木津の浜駅のプラットフォーム跡はもちろん、蒸気機関車が通ることができるような背の高い石造りのトンネルや緩やかなカーブは、鉄道線路跡特有のものです。また小浜歴史資料館には、小濱鉄道の敷設と維持管理に尽力した本多家の功績が展示されています。

初夏になると、小濱鉄道跡の切通しは、新緑が“緑のトンネル”となって、かつての鉄道跡を優しく包み込みます。緑の美しいこの時期に、ぜひ小濱鉄道跡を散策してみませんか? この道を歩くと、今でも前から蒸気機関車が力強く走ってくるような気がします。

次回は「がまだすドーム」を紹介します。

平成27年度
島原半島ジオパークガイド養成講座

📅 7月4日(土)～11月(月2回程度)
📍 学…土曜日の午前中
野外実習…土曜日もしくは日曜の終日
📄 無料
📅 6月26日(金)
📍 島原半島ジオパーク協議会事務局
☎ 0957(65)5540 FAX 0957(65)5542

受講生
募集